

## 岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年7月27日現在

## 今月の重点活動

## ■スマート農業 スマート農業実証コンソーシアム会議を開催

7月17日、JAぎふ巣南支店にて、超低コスト輸出用米スマート農業実証コンソーシアム会議が開催された。この会議は「国のスマート農業加速化実証プロジェクト」を進めている（農）巣南営農組合とコンソーシアムに入っている関係機関、農機メーカーなどが一堂に会し、今年度（事業最終年度）の事業計画や進捗状況について協議した。農業普及課からは、スマート農業機械の実証結果や今後の実証計画などを報告した。

今後も、本プロジェクトにおいて各種調査や検証を行い、スマート農業技術の地域への定着と普及に取り組んでいく。



【コンソーシアム会議】

(地域支援第三係・松本 政行)

## 多様な担い手づくり

## ■大豆 管内の農業法人が全国豆類経営改善共励会にて農林水産大臣賞を受賞

本巣市のアグリード株式会社が、第48回全国豆類経営改善共励会（大豆・家族経営の部）において最高賞である農林水産大臣賞を受賞し、7月14日、東海農政局にて表彰状授与式が行われた。農業普及課では、大豆栽培指針の作成や病虫害防除指導などを行い、同法人の大豆単収向上に向けた支援を行うとともに、共励会については調書作成や審査員からの質問書に対する回答作成支援を行ってきた。

今回の審査では、令和元年産大豆の播種作業が長雨により遅れ8月播種となった事に対処するため、狭畦密植栽培を導入して213kg/10aの単収を確保する一方、スマート農業機械を活用し4.85時間/10aの労働時間を達成した事が評価され、農林水産大臣賞を受賞する事ができた。

農業普及課では、このような優良事例を他の大豆生産者に紹介し、地場産大豆の安定生産と品質向上を図る。



【表彰後の記念撮影】

(地域支援第三係・松本 政行)

## ■いちご いちご研修生対象の勉強会の開催

本年、本巣市のいちご生産法人（あすなる農業塾長）にて、来年6月の就農を目指して1名の研修生が研修を受けている。

研修生は法人のもとで栽培管理について実習を行っているが、いちご生産、農業経営をしていく上で必要な基礎知識を研修中に習得することも必要なことから、6月より生産者、JAぎふ、農業普及課が講師となって毎週1回の講義を実施している。受講を希望する就農3年目の生産者を含めて受講者は2名であるが、少人数であることを活かし、講師への質問を考えてもらう等、講義が講師の一方的な説明にならない形式になるよう努めている。

岐阜地域就農支援協議会では、あすなる農業塾長の下でいちごの就農研修を行う研修生に対しては、協議会が講義を行う体制を本年度からスタートさせた。農業普及課では、研修生にとってより良い講義となるよう、生産者、関係機関と連携して協議、検討していく。

(園芸産地支援第一係・菊井 裕人)



【講義の様子】

## ■アドバイザー GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック認定書交付式・第1回全体会開催

7月9日、GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロックにて全体会がOKBふれあい会館にて開催された。会の冒頭に、新型コロナの影響で延期されていた認定書交付を行い、新規会員3名を迎えての活動開始となった。

全体会には17名の会員が出席し、今年度の活動内容について協議を行った。本年度は「本巣市方面の会員相互視察研修」と「心と体のリフレッシュ研修」に取り組むこととなり、各研修の開催について主催グループを設け、自主的に開催運営を行っていくこととした。

今後も農業普及課は、自主的なアドバイザーの活動を支援していく。

(園芸産地支援第一係・福田 富幸)



【活動内容を検討】

## 売れるブランドづくり

### ■加工用キャベツ 栽培講習会を開催

7月9日、今年度の業務用加工キャベツの作付けを前に、JAぎふ各務原中央営業所で、作付けを予定する土地利用型の生産者を対象に、令和元年度作付け分の出荷実績報告並びに今年度出荷に向けた作付計画及び栽培管理についての講習を行った。昨年は、暖冬等の影響で生産量は多かったが、前倒し出荷等で販売は苦戦した。

農業普及課からは、昨年の反省点を考慮して、栽培暦にて定植～収穫までの注意点を説明した。

今後も全農、農協と協力し、加工キャベツの生産、安定出荷に向けて指導していく。

(地域支援第二係・野口 裕史)



【講習会風景】

### ■いちご 「華かがり」の現地生育状況調査

7月16日、岐阜市、本巣市の「華かがり」の現地ほ場で農業技術センター、農業経営課とともに生育状況の調査を実施した。岐阜地域では岐阜市1名、本巣市5名が「華かがり」を生産している。昨年は、秋期の高温の影響と思われる出蕾、開花のバラつき、腋花房分化の遅延による長期の出荷休み等により、「華かがり」の特性である連続出蕾性や大果生産が例年より劣る結果となった。今回、育苗状況について調査をするとともに、令和元年作の結果について聞き取りを行い、本年作での対策について生産者と意見を交換した。

今後は、令和元年作での結果を分析し、本年作での課題と対策についてまとめ、8月に開催予定の華かがり研究会で協議、検討を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・菊井 裕人、園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【苗の生育状況調査】

### ■アスパラガス 夏どり始まる

岐阜地域では、立茎期間も終了し夏どりが始まっている。

今年は7月に入り、曇雨天が続き、灰色かび病・褐斑病が確認され、収穫量が平年以下の生産者もいるが、このような悪条件でもしっかり選別し、高品質なアスパラガスを出荷している。

今後、農業普及課では、天候不順が続く中、少しでも収量が上がるよう生産者を支援していく予定である。



【ハウス内の様子】

(園芸産地支援第一係・佐藤 博)